

総合型選抜 第1次選考のポイント

2024年度総合型選抜がどのように行われたかについて、第1次選考のポイントを示したものです。
2025年度入試が、次のように行われるということではありませんので、ご注意ください。



書類選考

出願書類の自己推薦・志望理由書と調査書を審査しました。

「自己推薦・志望理由書」には、高校時代にがんばった活動を3つまで選択し、中でもっとも力を入れて取り組んだ活動の具体的な内容と自分が成長したこと(800字)、学科・コースを志望する理由(400字)、大学在学中にもっとも取り組みたい活動内容に(400字)、大学卒業後に社会でどのように活躍したいか(400字)をインターネット出願システムに入力します。また、資格・検定取得、表彰なども最大5つまで入力できます。これらの記載事項から「学科・コースへの意欲関心や志望動機」、「高校等での活動歴」、「文章の表現力」を中心に評価しました。

「調査書」からは、資格取得の内容、特記事項の記載を中心に審査し、英語に関する一定以上の資格等についても評価しました。

●選抜方法と求める能力の関連

選抜方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働性
1次(調査書)	○		○
1次(志望理由書・自己推薦書)	○	○	○
1次(面接)		○	○



個人面接

2名の面接官による、1人あたり15分の面接を行いました。

「自己推薦・志望理由書」からは、自分の強みは何か、学校生活で力を入れて取り組んだことは何か、それらが自分の成長とどのように関係するか、どのようなことを大学で学びたいのか、なぜ鳥取大学の学部・学科・コースを志望するのか、学びたい学問の興味関心がより深いのか、大学卒業後に何をしたいか、それらについて、より詳しく具体的な説明を求めました。

「資格・検定取得、表彰など」や調査書の特記事項の記載内容からも質問しました。

これらの質問内容を正しく理解しているか、質問への明確な受け答えができるか、その回答は自分でよく考え、論理的かつ明確に表現できるかということを中心に評価しました。

第1次選考(個人面接)は自宅や学校が試験会場です！

鳥取大学では、2005年度入試より、鳥取だけでなく、東京、名古屋(2019年より)、大阪、岡山、福岡にも会場を設けて、対面による第1次選考(個人面接)を行ってきました。

2021年度入試では、新型コロナウイルス感染症のまん延により個人面接を中止しましたが、2022年度入試は、オンラインで個人面接を実施しました。Web会議システムの「Zoom」を使用して行いました。志願者に用意していただいたのは、ビデオ通話が可能な機器(PC、タブレット、スマートフォン)、それらの機器に接続可能なマイク、Webカメラ及びイヤホン(ヘッドセット)と静穏な環境で受験できる場所でした。

個人面接の数日前には、志願者全員と事前に接続テストを実施しました。これで初めてWeb会議システムを使う人も安心して受験をしていただきました。

また、面接試験時間中には、第三者が入室しないこと、メモや録音、録画をしないことなど、いくつかの禁止事項を設けて公平な試験の実施を行いました。すべての受験生が問題なく個人面接を実施できました。2025年度入試でも同様にWebを用いて実施し、今後もWebでの面接を予定しています。このように鳥取大学の総合型選抜第1次選考では、会場への移動のために時間や費用がかからず、慣れた場所で受験をすることができます！

